

第4号



こうみょうだより

発行：社会福祉法人多摩養育園
編集：光明保育園 園長会

題字：園児

令和2年8月15日発行



もくじ

- 学びの芽生え 「協同性」
- 保健 「衣服」
- 和のころ 「十五夜」
- 地域の大きな家 「今は会えなくても…」



好奇心旺盛な乳幼児期、いろいろなことにチャレンジしていく子ども達。友達と関わる中で、時に喧嘩をしながら、思いや考えを共有し、ともに成長し、喜びを分かち合いながら「協同性」を育みます。今号では、遊びや活動、行事を通して共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもってやり遂げるようになる「協同的な学び」の姿にフォーカスをあててみます。

安心できる関係の下で 乳幼児期から、様々な人と関わり、人と関わることは本当に面白いと感じられるような経験、誰かが困っている時には、助けてあげたいという気持ちを育むような経験、そして自分が助けてもらった時の嬉しい気持ちを味わう経験。安心できる人間関係の中での経験から、「共同性」へとつながっていくのです。

0歳児でも、顔を見合わせて、うなずいたり、語りかけるように声を出したり、相手の気持ちを感じ取り、関わる事ができます。



「みんなで大きな山をつくらう！」友達の呼びかけに気持ちが一つに。「トンネルも作ろう」一緒に作り上げる楽しさを満喫。途中で崩れても、どうしたら出来るかを考える子ども達。

牛乳パックの平均台で遊ぶ二人。ずれてしまった台を直そうとするA君。自分の番になったB君は、邪魔されると勘違い。思わずA君の手を止めた。



でもA君が「まっすぐにする」と言うと、B君も手を止め一緒に直した。平均台が真っすぐになり、また満面の笑みで遊ぶ二人の姿があった。

保育者のまなざし

“遊ぶために直しているんだ”と気づくことが出来た際のB君の嬉しそうな表情が印象的だった。思いが一致したからこそ、二人で協力することに繋がったのだと感じられる場面だった。

みんなで作り上げる行事 夏まつり、年長児はお店屋さんごっこの店番、年下の友達が担ぐ神輿の応援、そしてフィナーレに自分たちが担ぐ神輿と大忙し。店番の役割を任された子ども達。どのように年下の子に関わるかは自分たちで考えます。何の店番をするかもめたり、「疲れたあ」と途中で気持ちが途切れそうになったり……。最後まで自分たちでやり通すことができたのでしょうか。



お店屋さんでどれにしようか迷っている子に「これにする？」と優しく聞く年長児。

ゲームコーナー、おもち全身でうちわを振り、やを自分で取ろうとする「ワッショイ」の掛け手を温かい目で見守りま声と共に、威勢のいい応援！

フィナーレは自分たちの出番！「僕たちの姿を見て！」気合が入ります。

保育者のまなざし

いざ、夏祭りが始まると、困っている子がいれば助ける、何かしようとしている子がいればじっと見守る。大人顔負けの程よい距離感でかかわる子ども達。おみこしでは、小さな子を全力で応援し、自分たちの出番では真剣に担ぐ。なんと頼もしい姿でした。今まで、年長児がしていたこと、自分たちがしてもらってきた経験が、「今度は自分たちの番だ」と自然に年下の子への心遣いや行動へ繋がったのだと、子ども達の心の成長を感じる瞬間だった。



保健室からこんにちは



子どもと衣服 乳幼児は発達期で活発に動き回りますが、体温調節機能や皮膚の抵抗力は弱いです。そのため暑さ、寒さ、皮膚への刺激から体を保護するために、衛生的で季節に合った衣服を身につけることが大切です。

そして、衣服には、羞恥、礼儀、装飾の社会的な目的があり、人間として自立する習慣づけの重要な柱となります。



お着換えスタート
ここから腕を出すのかなあ

ズボンは少し難しいけれど…両足通せたね

まだまだ自分で着替えることに難しさを感じながらも、「自分で！」という思いも強くなる1歳児。袖から腕を出したり、片方に両足を入れ、ズボンを履こうとしたり、ぎこちないながらも自分でできることに挑戦。毎日の中で少しずつ着替えの仕方や感覚を覚え、手指の器用さ等発達と「自分で」の思いが関係し合いながら、徐々に自分でできる範囲が広がっていきます。

一人で服を着る・靴を履く

「着脱」では「脱ぐ」よりも衣服では「着る」、靴では「履く」の方が難しいものです。保育園では自分でしようとする意欲を損なわないよう、子どもの姿に合わせて援助することを大切にしています。



なかなか上手く履けずしばらく考えた後、足を入れて立ち上がってみる・・・



立ち上がり体重をかけるとかかとが上手く入った！自分で履けたよ！⇒

「思い、考え、行動する」自分で感じたこと、思ったことを頭の中で練って、考えて、行動することを保育の中で大切にしていますが、子どもたちは着替えることの意味をどこまで理解しているのか、着替え後の、年長児にインタビューをしてみました。

給食で汚れたから



汚れているしコロナがついているから

インタビューをする前は、着替えをする意味をわかっているのかなと不安を持っていましたが、「なぜ着替えをするのか」ほとんどの子がしっかりと答えることができていました。

自分の健康を守るため、また着替えをする意味を年下の子どもたちに伝えていけるように、着替えの大切さを生活の中で伝えていけたらと思います。

保健室ほっこりエピソード



上着もズボンも前後や裏表の区別を見極めるのは、子どもにとっては難しいですね。身体測定時、脱ぎ捨てた片袖片足裏表になった衣服を時間をかけて悪戦苦闘している3歳児に対し、自分から声をかけてくるまで見守っていました。すると後で部屋に来た4歳児がその様子に気づき、「手伝おうか」とやさしく声をかけ「こうしてねこうするとね。ほら。」と元通りになった衣服を見てお互いニッコリ。微笑ましいひと時でした。

和のこころ「今年はおうちでお月見をしよう」

十五夜・十三夜ってなあに？ 本来、十五夜は満月のことなので年に12回または13回めぐってきます。特に旧暦の8月は一年の中で最も空が澄みわたり月が明るく美しいとされていたため、平安時代から観月の宴が開催され、江戸時代から収穫祭として広く親しまれるようになり、十五夜といえば旧暦の8月15日をさすようになりました。また、秋の収穫に感謝するお祭りでもあり、この時期に収穫される里芋などの芋類をお供えするので「芋名月」ともいいます。十三夜は、十五夜に次いで美しい月だと言われているため、中秋の名月（十五夜）から約1カ月後に巡ってくる十三夜のお月見を昔から大切にしていました。十五夜または十三夜のどちらか一方しか観ないことを「片見月」「片月見」と呼び、縁起が悪いこととされています。

この時期には丁度収穫期を迎える大豆・枝豆や栗などを供えることから十三夜の月は「豆名月」、「栗名月」とも呼ばれています。

保育園では、みなんでお団子を作り、お供え物と一緒に、お散歩で見つけたススキを飾ります。おうち時間が増えた今、是非、ご自宅でもお子様と一緒にお月見はいかがですか。



今年の十五夜は10月1日(木)・十三夜は10月29日(木)

地域の大きな家

地域の方との関わり

ボランティアの方になかなかお会いできないので、手紙を書いています。みんなで「おげんきですか？またあえるのをたのしみにしています」と心を込めて書きました。「絵も描こう」と言って、好きな絵を楽しそうに描いていた子ども達。手紙が届くとボランティアの方から電話をいただき、とても喜んでいる様子でした。またお会いできる日を楽しみに、これからも地域の方との関わりに感謝すると共に、よりつながりを深め、一緒に子どもたちを見守っていきたいと思います。



伝統芸能の継承

毎年、伝統芸能の継承として地域のボランティアの方に毎月お囃子を教えて頂いています。現在は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、直接教えて頂いてはいませんが毎月、練習の進み具合を気にしたり、観て練習することができるように、お囃子のDVDやCDを持ってきてくれたり、保育園の事をいつも気にかけてくださっています。地域の方に見守られ、優しい心が育まれています。

